

2017年8月9日

クラレトレーディング株式会社

## 平成29年（2017年）12月期第2四半期決算概要

会社名 : クラレトレーディング株式会社  
代表者 : (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 村井 研三  
問合せ先責任者 : (役職名) 人事・総務部長代行 (氏名) 三宅 富士夫  
: (TEL) (06) 7635-1636

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年12月期第2四半期の連結業績（平成29年1月1日～平成29年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

	当第2四半期累計期間 (平成29年1月～平成29年6月)		前第2四半期累計期間 (平成28年1月～平成28年6月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	62,661	-	59,097	-	+3,563	6.0%
営業利益	1,935	3.1%	1,895	3.2%	+39	2.1%
経常利益	1,980	3.2%	2,227	3.8%	▲247	▲11.1%
四半期純利益	1,382	2.2%	1,499	2.5%	▲116	▲7.8%

#### (2) 単体経営成績（累計）

	当第2四半期累計期間 (平成29年1月～平成29年6月)		前第2四半期累計期間 (平成28年1月～平成28年6月)		増減	
	金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
売上高	62,014	-	58,384	-	+3,629	+6.2%
営業利益	1,700	2.7%	1,752	3.0%	▲51	▲3.0%
経常利益	1,756	2.8%	2,086	3.6%	▲329	▲15.8%
四半期純利益	1,218	2.0%	1,396	2.4%	▲178	▲12.8%

### 2. 当四半期決算に関する定性的情報

#### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成29年1月1日～平成29年6月30日)のアジア市場は、中国が6%台の成長率を維持し、他の多くの新興国でも持ち直しの動きが見られました。

しかし、国内経済においては輸出や生産の持ち直しを背景に緩やかな景気回復がみられるものの、消費は未だ勢いが感じられません。

このような環境の下、当社は「アジアを中心とする成長市場の積極的な開拓」「クラレグループの強みを活かした高付加価値商材の開発」を積極的に推進致しました。

以下< >の中の名称は(株)クラレの商標です。

### 【繊維関連】（減収、減益）

売上高 217億1千万円。前年同期比2億9千8百万円(1.4%)の減収。

#### （衣料分野）

- ユニフォーム分野は、ワーキング用途のアパレル向け販売が堅調に推移し、増収となりました。
- スポーツ分野は、スポーツアパレル向け販売が回復の兆しながら、学校体育衣料向けの販売が苦戦し減収となりました。
- ブラックフォーマル分野は、流通段階での在庫調整の影響を受け減収となりました。
- 縫製ビジネスにつきましては、ベトナム現法の機能強化により生地～製品一貫のオペレーションが拡大、更に昨年実施した協力工場の設備増強とプリント工場新設の効果と併せ、着実に拡大しています。
- 高度差別化糸については、3月に増設した水溶性繊維<ミントパール>が高級タオル用途を中心に数量を拡大しました。一方、帯電防止繊維<クラカーボ>は、中国市場での競争激化の影響を受け、苦戦を強いられることとなりました。
- 上海現地法人での、日系スポーツアパレルの中国内販向けを中心とした縫製品のODM販売は順調に推移いたしました。

以上の結果、衣料分野は減収、減益となりました。

#### （資材分野）

- 機能資材は、研磨、フィルター分野が堅調に推移したものの、スポーツ靴資材の不振に加え、メディカル関連資材の低迷もあり減収となりました。
- 産業資材は、高強力繊維<ベクトラン>と水溶性PVA繊維<クラロンK-II>が、中国産品増加の影響を受け苦戦しましたが、FRC(繊維補強セメント)用ビニロンが堅調に推移し増収となりました。
- 人工皮革<クラリーノ>は、スポーツ靴、手袋製品、雑貨用途の販売が順調に推移し、増収となりました。

以上の結果、資材分野は、増収、増益となりました。

### 【樹脂・化学品・化成品関連】（増収、増益）

売上高は409億5千万円。前年同期比38億1千5百万円(10.3%)の増収。

- 溶剤等化学品関連は、新規顧客開拓もあり、販売数量を伸ばし増収となりました。
- アクリル製品関連では、車載用途、アミューズメント関連が好調に推移し増収となりました。

## （2）平成 29 年 12 月期の連結業績予想(平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

当社の経営環境は、国内消費が依然、力強さに欠けた状態であり、アジア、とりわけ中国は政府の過剰生産調整などの政策により景気の下振れリスクが予想されるなど、先行きは不透明であると認識しております。このような環境下ではありますが、引き続き、アジア市場での取組み強化、商材の高付加価値化への注力、効率経営の追求等の努力を行って参ります。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
年初公表	1,250	40	40	25
今回公表	1,280	40	40	25

<注記>上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいており、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なることがあります。

尚、2017年度計画における主要事業戦略は、以下の通りです。

- 繊維関連事業における2016年度投資案件の着実な効果発現(高機能繊維及びベトナム縫製事業の拡大)
- 先行投資的に進めてきた海外拠点整備によるアジアでの販売拡大

以 上